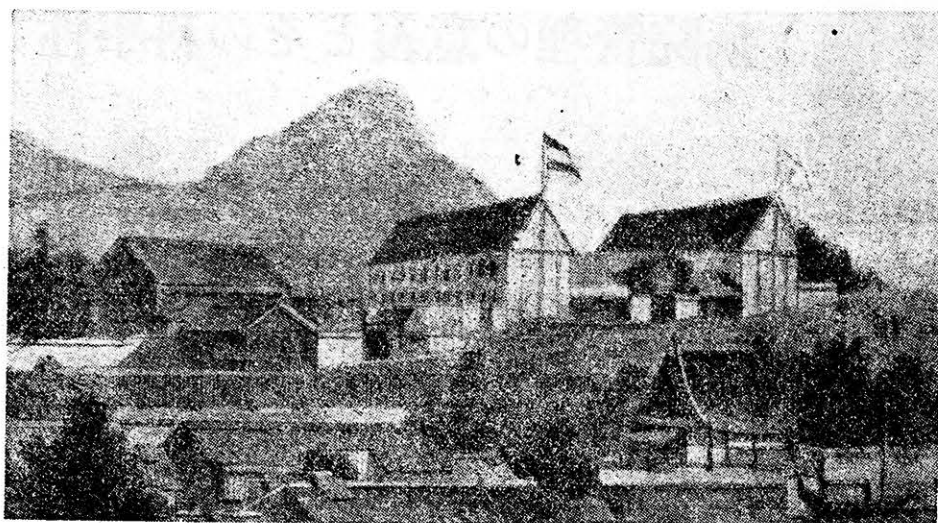




上に掲げる畫は日本最初の洋式病院である長崎養生

日本最初の洋式病院

の策として病院を設立しよう。——良順のこの考にボン

所の全景である。落成は文久元年5月、病院の傍には院長官舎もあり、塾舎、教室、解剖室等も完備していた。松本良順が頭取、ボンペ・ファン・メーデルフォルト（オランダの貴族、陸軍々醫）が教師で午前是一般患者の診療、午後は教室でボンペの講義があつた。

この養生所設立までの経過は次の如くである。當時長崎大村町の傳習所には大藩の選拔生が笈を負つて集りボンペや良順の講義を聞いていた。良順の考えるには「こうして熱心に蘭學を研究するのも悪くはないが醫家として人命を司る者が單に2、3年の學問を以て病家に臨むことは危険千萬なことである。もともと學問は死物、これを眞に活躍させるには學問と相まつて實驗上の技術が伴わなくてはならない。この多數の醫學生をこのまゝ社會に出す事は佛作つて魂を入れずと同じだ。幕府に建言し國家百年

ンペも双手をあげて賛成、岡部奉行、筑前黒田侯、越前春嶽侯、伊勢藤堂侯等の支持を得て設立計畫は軌道に乗つた。その後岡部奉行にかわつた高橋奉行及び有馬監察から横やりが入つたがオランダ公使トングルの努力及び虎穴に入つて虎兒を得る愷の良順の活躍によつて有馬監察も良順の説に感服して遂に良順の保護者となつた。

「長崎小島に病院が出来て外人の名醫と松本という幕府の醫者が一般人を治療もする。入院もさすそうである。病院の名聲は旬日ならずして高まつた。『近隣の國々は勿論、中國、四國のあたりより難症奇病の患者輻輳し、治驗も著しく現われ又教授上臨床講義の便ともなりて大いに醫療の面目を収めた。——とは長與專齋が「松香弘志」中に記すところである。（鈴木要吾著「蘭學全盛時代と蘭學の生涯」より）（谷）